

会 員 各 位

研究会事務の一部移管と事務体制
の変更について（お知らせ）

日本脂質生化学研究会

会 長 野 島 庄 七

この度、日本脂質生化学研究会の事務の一部を、（財）日本学会事務センターに委託することが、去る12月の幹事会において承認されました。

つきましては、研究会の事務の取扱いが下記の通り分掌体制となりますので、お知らせいたします。詳しくは、後日 別便にて日本学会事務センターより、ご案内いたします。

言 己

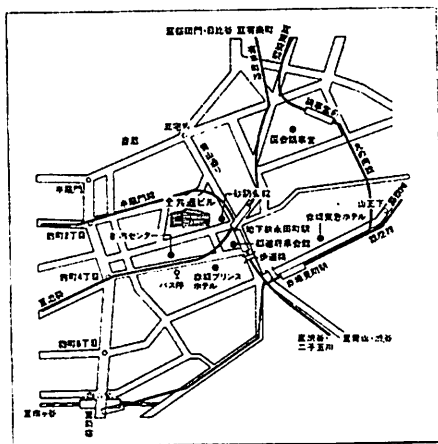
（財）日本学会事務センターで扱う事務

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 入退会の受付 | 連絡先：〒113 東京都文京区本駒込5-16-9 |
| 2. 住所変更の受付 | （財）日本学会事務センター |
| 3. 年会費の徴収 | 会員業務部 |
| 4. Circularおよび要旨集の発送 | TEL. 03-5814-5810 |
| 5. 未着クレーム等 | FAX. 03-5814-5825 |

日本脂質生化学研究会事務局で扱う事務

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1. Circularの作成 | 連絡先：〒199-01 |
| 2. 研究会演題受付 | 神奈川県津久井郡相模湖町寸沢嵐1091 |
| 3. 要旨集の作成 | 帝京大学薬学部薬品物理化学教室内 |
| 4. 総会・幹事会の案内等 | 日本脂質生化学研究会事務局 |
| 5. その他の業務 | TEL. 0426-85-3280（瀬高・佐藤） |
| | FAX. 0426-85-2004 |

- 会 場：全共連ビル
〒541 東京都千代田区平河町2-7-9
TEL 03-3265-3111
- 期 日：1993年6月4日（金）～ 5日（土）
- 実行委員長：赤松 穂
〒162 東京都新宿区戸山1-23-1
国立予防衛生研究所 細胞化学部
TEL 03-5285-1111 (内)2101
FAX 03-5285-1157
- 集会参加費：4,000円
- 懇 親 会：1993年6月4日（金）18:00 ～ 20:00
マツヤサロン(全共連ビル 6F)菊の間
TEL 03-3265-3301 (代表) 会費 5,000 円 (予定)
- 6月4日（金）午前中に「脂質生化学と分子遺伝学との接点」(仮題)と題するシンポジウムを予定しております。
- 会場への交通案内：
都バス／新橋・新大久保駅より
平河町2丁目都市センター前下車(徒歩1分)
地下鉄／有楽町線永田町駅下車出口No.4(徒歩2分)
丸の内線・銀座線赤坂見附駅下車(徒歩5分)
JR線／中央線・総武線四谷駅下車(徒歩15分)
タクシー／四谷駅から5分、東京駅・新橋駅から10分



- ① 演題の申し込み
発表12分討論5分を予定して居りますが、演題数によっては発表13分討論5分になる場合もあります。
申し込みには挿み込みの原稿用紙をお使いください。これは、このまま印刷になるものではありませんから、タイプでもワープロでも手書きでも結構ですが、黒で読み易く書いてください。
申し込み締切 3月22日（月）必着
- ② 審査ならびにプログラム編成
在京幹事、実行委員を中心に審査ならびにプログラム編成をおこない、改めて、講演集用原稿用紙をお送りいたします。（4月1日予定）
- ③ 講演集用原稿締切 4月15日（木）必着
- ④ 研究集会プログラム編成 4月下旬

[申し込み、および講演集原稿送付先]

199-01 神奈川県津久井郡相模湖町寸沢嵐
帝京大学薬学部薬品物理化学教室内
日本脂質生化学研究会事務局 宛

平成五年度 日本脂質生化学研究会総会のお知らせ

上記の総会を平成5年6月4日(金)、懇親会に先だって、懇親会会場に於て開催致します。ご出席賜りたく存じます。

会長 野島庄七

- 議題
1. 平成4年度事業報告
 1. 平成4年度決算報告ならびに監査報告
 1. 平成5年度事業計画ならびに予算案
 1. その他

以上

平成五年度 日本脂質生化学研究会幹事会のお知らせ

上記幹事会を平成5年6月4日(金)正午(プログラム編成上、若干の変更があるかも知れません)より全共連ビル内で開催致します。幹事の皆様のご出席をお願い致します。

- 議題
1. 平成5年度日本脂質生化学研究会総会への提案事項の検討
 1. その他

会長 野島庄七

○幹事の皆様には別途、御案内を申し上げます。

○尚、昼食代 1,000円を申し受けます。

年初に当たって

帝京大・薬 野島 庄七

この度、本研究会のお世話をさせて頂くことになりました。安田守雄、原一郎、山川民夫、三大先生のあとを引き継ぐ事ですので、私のようなものには大分荷が重いのですが、年令という事もありますし、又、大変お世話になっております研究会ですので、一度はその務めを果たさなくてはいけないとも考えまして引受させて頂くことに致しました。

会員の諸先生方からの暖かいご支援と厳しいご助言を頂きまして、その責をなんとか全うできましたならば望外の幸いであります。

本研究会の第一回研究集会は、1961年（昭和36年）6月17日に御茶ノ水の日本化学会図書館講堂で開催されました（脂質生化学研究1962）。北は北海道、南は九州からと200名を越える研究者の参加があり盛会であったと、舟橋三郎、原一郎、両先生が研究会発足前後の経緯について書いておられた中に記されております。

現在のように、一年に一回の研究集会で、一般演題を公募して行なうようになったのは2年後の1963年からであります。又、一会場制（これは研究会としては最も望ましい形式ですが）は1965年までであり、それ以後、研究会の持ち方が、内容も含めて、色々な

角度から議論されましたが、現行の方式に落ち着くようになって大分たっております。トピックス中心のシンポジウムを組織したり、また開催日前または後に、特別（招待）講演を行なうなどはその年の組織委員長のお考えに従っていると考えて良いのでしょうか。

本研究会は生化学会、農藝化学会、薬学会・・・等の年会との関連、あるいは科学研究費（文部省、厚生省、農水省、科学技術庁などの）を基盤にした、各種集会、ワークショップ、シンポジウムなどとの関連は現在ございません。会費さえ払って頂けただけで、この研究会はとにかく盛会を続けており、充分研究会としての機能を果たしているようであります。むしろ、会員の皆様の活動の場が年一回ですが簡単な形式であるということが逆に特徴といえましょう。ですから目下のところ、その存在の可否についての議論などは全くないようであります。これは30年という年月を経て、いろいろな修羅場を切り抜けて来られた、三前会長、庶務担当幹事の各先生の献身的、いや、自己犠牲的な御努力と各会員の研究会への積極的参加によって、今日のような立派な研究会になっていると確信しております。

以上、いささか堅苦しい事しか書けませんでした、今後出来るだけサービスに徹するということをモットーにしてやって行くつもりであります。もう一度、会員皆様方の御協力をお願い致しますという事で、この皆様への挨拶を終わらせて頂きます。

会長を退くに当たって

名誉会長 山川 民夫

会長の任期は2年で重任は構わないという会則があるのだが、何年務めたのか判らないので、先日開かれた幹事会の席上、大分長くやらせていただいたのでこの12月末日でやめますので次期から野島庄七先生に会長をお願いすると挨拶をしました。その後、島崎弘幸君に問合せたところ私は昭和60年1月1日から原一郎先生の後を受けて会長になったと記録されている由なので、4期8年を務めさせていただいたと判った。私がそんないい加減にやってもちゃんと事務局がやってくれるので、大過なく過ごせたわけであるし、会員の皆さんも幹事会や総会での雰囲気を見て、学問の水準は高いが、いとも和やかな会であることは先刻ご承知の通りである。

日本脂質生化学研究会は1961年6月17日に第1回の集会を開いたので30年以上を経過したが、ご承知の様に第一代の会長は安田守雄教授であったが実際に会を作って育ててくれたのは第二代会長の原一郎教授で、お二人とも故人になってしまった。次にあの世に行くのは私の願だなどと思うと余りよい気持ではないがこの所、いやに多くの方が次々に亡くなり、嘗て幹事だった方を含めると平成4年には沼正作氏、米山良昌氏、松原淑子氏、小峰仙一氏を次々に失った。

どの方も本会の為に活躍された方で、ご冥福をお祈りする次第である。

さて、この研究会は設立当時の理念では、単なる発表ではなく未完成でもよいから討論をしていただけるような演説をすること。また、会費はできるだけ安く（発会時は百円であった）賛助会員から一口一万円づついただいて、主にそれで運営することで始まった。しかし5,60人で始まったのが900人近くも会員が在籍する様になった現在、多少の変改はやむ

皆様、長いこと有難うございました。

帝京大 医 第一生化学 植田 伸夫

を得ない。しかし一時「学会」にしてほしいと世話人からの要請があったが、「研究会」に固執したのは、できるだけ口演と討論時間を多くして生化学会とは異なる会である旨を標榜したからである。

会費をできるだけ抑えた反面、運営を預かる事務局の教室の負担が大きかった。殊に庶務幹事を帝京大の植田教授が引き受けてからは、植田教室の皆さんの縁の下での力持ちの努力によって、とにかくにも円満に推移してきたことは会長としても感謝の他はない。

ただ演題が増加しても会場をできるだけ2会場よりは増やさないで、専門研究者だけの会にはしない様にした方針も、学問の進歩からそれが必ずしもベストとはいえない状況になった。なるべくしてなった現状であるが、決して悪い状況とは思えない。ただ生化学会も今では30もの会場を使って、それぞれのセクションで討論を含め15分の口演時間をとっている。殆ど当脂質研究会と変らない。無理に生化学会との違いをうたう要はなくなり、1年に2度このような発表の機会があるということといえる。糖質学会や神経化学会も本研究会と余り変らない経過をとって似たような会をもっている。そして夫々の幹事会、総会、懇親会を持つが故に、マンモス学会である生化学会とは違った同士の結合をもつて、協力関係が助長され、更に総合研究班の形成などにも役立っている。この功績は極めて大きいと思う。ただ今回からは時代の特に会員各位の経済状況の変化等に鑑み、研究会の事務(会費徴収や名簿整理等)の大部分を日本学会事務センターに任せることになった。新しい体制は野島新会長によって運営されよう。旧来の体制を固執することなく、是々非々で更に優れた研究会に発展して行くことを心から祈る次第である。

私共の教室が事務局をお預りしたのは、1976年から1977年にかけてのようであります。故原一郎先生の手になる「会報1976年2月」の会務報告の最後に、「日本脂質生化学研究会の事務局は永らく東京大学医学部血清学教室にあったが、今般一時的に一部業務を帝京大学医学部生化学教室に移しました。」とあります。

移転の経緯は明確に覚えて居りませんが、東大の血清学教室の事情や、大学紛争の後遺症や、原先生の外遊日程や、さまざまのことが重なっていたような気がいたしますし、また安田守雄会長(当時)のご病気のこともあったと思います。

1977年に私共からはじめての会報を出しましたが、そこに、その前年1976年(昭和51年)の総会の議事録があり、原一郎会長、植田伸夫庶務幹事、舟橋三郎会計監査が承認されています。ですから事務局正式移転が決まったのは1976年5月21日であります。

それから昨年(1992)の2月、1992年のサーキュラー(会報)を発行いたしましたから全部で16冊の会報を発行し、16冊の講演集を発行したことになります。これは教室のスタッフの方々と大学院の諸君の協力のお蔭です。若い会員の方や、新入会希望の方の電話を受けることがしばしばありますが、事務局には専任の職員が居ると誤解して居られる方もあったようです。しかし、この事務は教室全員で当りました。最後の日常事務を担当してくれたのは久樹晴美氏で、それまでも望月(福島)澄子氏、中野(川村)祥子氏、砂田(川島)静江氏の方々が日常業務を担当してくれました。1977年に、かつて原一郎先生の許で研究会業務を手伝っていた島崎弘幸氏が縁あって我々の教室に参画したのも、大きな戦力になりました。そして講演集や会報の発送業務は、教室員であろうとなかろうと、尋ねて来たお客さんまで動員し全員でおこないました。一人一人お名前は挙げませんが、深く感謝申し上げます。小生は、そんな事務局を引き受けて来た責任がありますから、実行部隊長として働いてきたつもりです。

脂質領域の学問内容もさることながら、研究情報の発信、受信の仕方も大きく変化して来ているように思います。とても読みきれない学術情報誌と論文、毎日、どこかで開催されている関連学会の中で、「脂質生化学研究」と「研究集会」はどのようにあればよいのか、はっきり方向性を見いだせないまま情性で事務局をつづけて来たような気もいたします。会長の交替、事務局の移転は、将来の方向を再検討するよい機会であると考えます。会員全体で、将来の学術情報のありかたを考えてみようではありませんか。

最後に会員の皆様、長いこと有難うございました。

会 の 活 動 状 況

① 第34回日本脂質生化学研究会・研究集会の開催

山本 章実行委員長が、動脈硬化学会と接続し、動脈硬化学会の臨床の研究者にも脂質研究会に参加して貰い、また、脂質研究会のメンバーも動脈硬化学会を聞くことができるようにとの構想で、同じマイドーム大阪で、日本脂質生化学研究会の研究集会を6月17日(水)、18日(木)とし、金、土、日の動脈硬化学会に接続されるよう工夫された。

第1日、第2日午前中、3会場をつかい、一般演題がおこなわれ、第2日の午後に特別講演、シンポジウムがおこなわれた。

会場はホテルなどの接続した、新しい集会施設で、なかなか快適な空間であった。

山本、田辺先生他のスタッフの方々に深謝いたします。

② 第34回日本脂質生化学研究会総会

平成4年6月17日(水)午後5時30分より、国際ホテルの宴会場で開催された。

総会次第

(1) 開会の辞 庶務幹事 植田 伸夫

(2) 挨拶 会長 山川 民夫

議事に入る前に原一郎名誉会長、永井諄爾名誉会員の訃報が報告され、全員で黙禱を捧げた。

(3) 議 事

1) 平成3年度事業報告及び決算報告

植田庶務幹事

2) 会計監査報告

野島会計監査

以上2件 拍手で承認

3) 平成4年度事業計画案及び予算案

(別紙参照) 拍手で承認

4) 役員改選

山川 会長

平成4年12月31日で任期の終了する会長、庶務幹事、会計監査を平成5年1月1日より、野島庄七、赤松 稔、植田伸夫の三氏にお願いする旨提案がなされ、承認された。

同じく平成4年12月31日で任期の切れる幹事29名についても、本人の同意を得て再任をお願いする旨提案がなされ、これを承認した。

5) また新幹事を賀佐伸省、松沢佑次、渡辺清博の3氏にお願いすることが提案され承認された。

次いで野島庄七氏より会長就任について挨拶があった。

6) 平成5年度の研究集会準備状況の報告

赤松 稔実行委員長

会期は平成5年6月4日(金)、5日(土)の2日間、東京千代田区平河町の全共連ビルで開催される旨の報告があり、多数の参加が要請された。

7) 平成6年度研究集会の実行委員長の選出

山川 会長

北大脳研の牧田 章教授にお願いしたい旨の提案がなされ、承認された。

③ 平成4年度第1回幹事会

平成4年6月17日正午より、大阪商工会議所において開催された。出席者58名(氏名略)。

総会に提案すべき事項を審議した。

議事内容は、総会と同じ。

④ 平成4年度第2回幹事会

平成4年12月4日、東京竹橋会館で開催された。

出席者 山川民夫(会長)、植田伸夫(庶務幹事)、野島庄七(会計監査)、荒木英爾、赤松 稔、石塚稲夫、伊藤俊洋、児島英也、島崎弘幸、鈴木明身、瀬高守夫、青山洋右、西村顯治、飯田静夫、村松敏夫、和久敬蔵(以上15名)

1) 平成4年度事業報告、決算案の審議

(1) 賛助会員と会員について

昨年度に増口の依頼をし、平成3年度に入金せず、4年度から入金した企業もあり、賛助会員からの収入が大きくなった。新しい賛助会員については、野島次期会長の許で検討される。

(2) その他平成4年度の事業

特に問題点は指摘されなかった。

(3) 平成5年度の事業および予算について

野島次期会長より、会費収納(会員管理)事務、サーキュラー、講演集の発送事務

を学会事務センターに委託したい旨の意向が示され、その経費的な問題等が説明された。収支に関する長期的な見通しについて議論された。

尚、庶務幹事の外、会計幹事を設けたいとの意向も示されたが、会則との関係もあり、さらに検討することになった。

(4) 第35回研究集会の準備状況の報告

実行委員長の赤松 稔幹事より説明があった。(本サーキュラー参照)

(5) 第36回研究集会の件について

牧田 章実行委員長より山川会長宛に連絡があり、山川会長より6月16日(木)、17日(金)の2日間北大構内で開催したい由であると報告された。

(6) 文部省科学研究費“脂質データベース”について

4年目も交付が決定された。実用化の仕上げが行われると植田幹事より報告された。

⑤ 平成4年度事業報告

1) 平成4年度事業報告

○ 会員数 正会員 762名(平成3年度737名)

但し、平成4年 新入会 29名
退 会 4名

名誉会員 14名

賛助会員 20社

○ 役員 会 長 山 川 民 夫 (任期平成4年12月31日迄)

庶務幹事 植 田 伸 夫 (同 上)

会計監査 野 島 庄 七 (同 上)

幹 事 平成5年度事業計画の項参照

○ 事 業 (1) 第34回研究集会の開催(実行委員長 山本 章 氏)

平成4年6月17, 18日

演題数: 特 3題, シンポ 11題, 一般 88題

参加数: 約430名

(2) 脂質生化学研究 34巻の発行 (本文 426ページ)

(3) 脂質生化学研究 Circular 1992 の発行 (本文 18ページ)

(4) 総会および幹事会の開催

総 会 平成4年6月17日(水) 国際ホテル(大阪)に於いて

第1回 幹事会 平成4年6月17日(大阪商工会議所)

第2回 幹事会 平成4年12月4日(東京、竹橋会館)

⑥ 平成4年度決算報告

(別紙)

⑦ 平成5年度事業計画

1) 会 員 正 会 員 微増の見込み

賛助会員 別 記

名誉会員 今井 陽, 数野太郎, 金田尚志, 日下喬史, 坂上利夫

高橋善弥太, 野島庄七, 野田万次郎, 藤野安彦, 堀 太郎

松本 亮, 山川民夫, 山崎三省, 山添三郎(以上 14名)

役 員 会 長 野島庄七 任期 平成6年12月31日迄

名誉会長 山川民夫

庶務幹事 赤松 稔 任期 平成6年12月31日迄

会計監事 植田伸夫 同 上

幹 事 (任期 平成5年12月31日迄)

猪飼 篤, 池沢宏郎, 石塚稲夫, 石橋輝雄, 伊藤精亮

古賀洋介, 鬼頭 誠, 田辺 忠, 矢野郁也, 山本尚三

(任期 平成6年12月31日迄)

宇田 裕, 島崎弘幸, 鈴木康夫, 高野達哉, 塚谷博明

二木鋭雄, 宮澤陽夫

(任期 平成7年12月31日迄)

赤沼安夫, 秋野豊明, 阿部敏明, 荒木英爾, 有田 斎

安藤 進, 猪川嗣郎, 板倉弘重, 板坂 修, 市原宏介

伊藤俊洋, 井上圭三, 入谷信子, 遠藤 章, 大島美恵子

大橋昌子, 岡田伸本郎, 岡本光弘, 奥田拓道, 奥山治美

小野輝夫, 川口昭彦, 菊川清見, 斉藤政樹, 渋谷 勲

清水孝雄, 鈴木明身, 瀬高守夫, 脊山洋右, 谷口直之

玉井洋一, 中川靖一, 中野益男, 西村顕治, 野沢義則
野間昭夫, 水柿道直, 武藤泰敏, 和久敬蔵

(任期 平成8年12月31日迄)

上田隆史, 加納英雄, 賀佐伸省, 北 徹, 楠瀬正道
児島英也, 菅野道廣, 武内 望, 武富 保, 千田信和
内藤周幸, 永井克孝, 橋本 隆, 秦 葭哉, 林 陽
林 浩平, 原島圭二, 飯田静夫, 平山 修, 穂下剛彦
牧田 章, 松沢佑次, 三成 脩, 村松敏夫, 山下 哲
山田晃弘, 山本 章, 渡辺清博

(以上 84名)

○ 事業 1. 第35回研究集会の開催

平成5年6月4日(金)

5日(土)

全共連ビル 東京都千代田区平河町2-7-9

2. 脂質生化学研究35巻発行

演題募集(サーキュラー発行) 2月1日

演題申込締切 3月22日

採用通知(原稿用紙発送) 4月1日

原稿締切 4月15日

編成会議 4月下旬

入 稿 4月下旬

講演集発送 5月下旬

3. 脂質生化学研究会サーキュラー 1993の発行 2月1日

4. 会 議

○ 日本脂質生化学研究会総会

平成5年6月4日

全共連ビル

○ 第1回幹事会

平成5年6月4日

全共連ビル

○ 第2回幹事会

平成5年12月

○ 平成5年度予算

(予算表参照)

賛 助 会 員

エーザイ株式会社 10口

塩野義製薬株式会社 以下5口

株式会社バイオックス研究所

三共株式会社 以下4口

住友製薬株式会社

東ソー株式会社

藤沢薬品工業株式会社

山之内製薬株式会社

株式会社資生堂 以下3口

株式会社東京化学同人

第一製薬株式会社

大日本製薬株式会社

東京田辺製薬株式会社

雪印乳業株式会社

花王株式会社 以下2口

株式会社大塚製薬

日清食品株式会社

日本ルセル株式会社

日本商事株式会社

決算表および予算表

収 入 の 部	平成 4 年度		平成 5 年度
	予 算	決 算	予 算
正 員 費	2,150,000	2,017,000	2,122,000
入 会 金	86,000	58,000	100,000
賛 助 会 員 会 費	450,000	810,000	680,000
講 演 集 売 上 げ	120,000	112,000	150,000
広 告 収 入	850,000	824,000	850,000
利 子	70,000	46,000	50,000
寄 付 金	0	0	0
雑 収 入	0	0	0
小 計	3,618,000	3,867,000	3,952,000
前年度よりの繰越金	1,760,963	1,760,963	2,171,954
計	5,378,963	5,627,963	6,123,954

支 出 の 部	平成 4 年度		平成 5 年度
	予 算	決 算	予 算
研 究 集 会 補 助	500,000	500,000	500,000
会 報 製 作 費	300,000	255,440	300,000
講 演 集 製 作 費	1,800,000	1,730,870	1,800,000
旅 費	40,000	35,000	55,000
郵 送 料 ・ 通 信 費	350,000	208,947	380,000
会 費 収 納 経 費	35,000	40,260	000
事 務 用 品 費	70,000	218,998	250,000
会 合 費	130,000	140,258	130,000
謝 金	50,000	20,000	50,000
総 会 経 費	5,000	5,000	5,000
事 務 経 費	300,000	300,000	100,000
事 務 委 託 費	0	0	600,000
委 託 時 経 費	0	0	303,000
雑 費	30,000	1,236	30,000
小 計	3,610,000	3,456,009	4,503,000
次年度への繰越金	1,768,963	2,171,954	1,620,954
計	5,378,963	5,627,963	6,123,954

第 3 3 回 国 際 脂 質 生 化 学 会 議 (I C B L)

見 聞 記



ICBL連絡委員 脊山洋右

国際脂質生化学会議 (ICBL) は昭和63年 (1988年) に東京で開催したのでご記憶の方も多いかと思う。以後イタリア、ドイツ、スペインときて、平成4年 (1992年) には第33回カンファレンスがフランスのリヨンで開かれた。リヨン市に隣接したVilleurbanneにあるINSATECHのLagarde教授が主催して9月7日から10日にかけてINS Aの講堂で行われた。

この会は日本脂質生化学会 (JCBL) と似た集まりで、毎年開かれることや歴史的な古さもほぼ同じぐらいであるが、基本的な違いは扱うテーマ (3項目) を毎年変えることである。また、ポスター発表は併用するものの、講演は1会場で、会期も3日と決まっていて、しかも2日目の午後は全員でエクスカージョンに出かけることが慣例になっている。

従って今回は特別講演 (1題) や招待講演 (10題) の他に口頭発表 (28題)、と比較的こじんまりした学会であった。ポスター発表は67題であった。参加者も170名前後であったから、日本の脂質生化学会に比較しても小さな会といえよう。これは先にも述べたようにテーマが絞られていることが原因であるが、毎回参加している常連は30名位で、大部分がその会限りの参加者との印象を受ける。

今回取り上げられたトピックは1. エイコサノイドと脂肪酸過

酸化物、2. 植物における脂肪酸代謝、3. リポタンパク質の酸化と細胞活性化、の3つのテーマである。一言でいうと「過酸化脂質」に焦点を絞った会といえよう。

リオンはパリの南方500キロのところにあるフランス第2の商業都市で、絹織物の産地でも知られている美しい町である。早くも秋の訪れを感じさせる9月7日の夕刻に山本尚三氏（徳島大）の特別講演「アラキドン酸12-リポキシゲナーゼ」が行なわれて開幕したが、同氏の話はプロスタグランジンやロイコトリエンのように生理活性をもった反応産物が見つかっていないのでややもすれば見過ごされてきた「12-リポキシゲナーゼ」を巡って、酵素タンパク質の精製からそれをコードするcDNA、さらにはゲノムDNAの構造まで、臓器特異性を含めて述べられたもので、巧みな英語と相まって聴衆を魅了したものであった。

8日は「エイコサノイドと脂肪酸過酸化物」をテーマに4題の招待講演と12題の一般講演が行われた。Gutteridgeの「脂質過酸化の基礎知識」、Chaudiereの「グルタチオンペルオキシダーゼの防御と代謝における機能」、Riendeauの「リコンビナント5-リポキシゲナーゼの安定化と性質」、Spectorの「12-リポキシゲナーゼ産物の代謝」が招待講演である。一般講演は脂肪酸あるいはステロールの酸化を巡る話が多かったが、筆者はPAF受容体のクローニングについての講演を行なった。

この晩は市庁舎（リオン市ではなく大学のあるVilleurbanne市）でレセプションが行なわれたあと、コンサートが行なわれた。

9日は「植物の脂肪酸代謝」というテーマで行なわれた。招待講演はHeinzによる「植物における不飽和脂肪酸の生合成：糖及びリン脂質を基質として」、Chableによる「動植物のリポキシゲナーゼ」の2題が行なわれた。いずれも動物と植物の違いを対比さ

せた講演である。植物では糖脂質やリン脂質にエステル結合した脂肪酸が直接cis-不飽和化される。動物ではアラキドン酸が基質となるのに、植物ではリノール酸やリノレン酸が基質となるという違いがあるにもかかわらず、リポキシゲナーゼの構造が似ているという事は注目に値する。

この日は昼食会を兼ねて運営委員会（Steering Committee）が開かれ、今後の会の予定等が話しあわれた。第34回はオランダ（別紙参照）、第35回はスコットランド、第36回はアメリカで開催されることになった。また、4年間運営委員を務めた野島庄七、脊山洋右は任期満了となり、日本からの連絡委員は永井克孝に代わって脊山洋右が務めることとなった。

3時すぎからは恒例のツアーとなり、3台のバスに分乗してリオン市の北方にあるボジョレ地方にワイナリーの見学にでかけた。小高い丘がどこまでも連なる葡萄畑の中を和気藹々巡ってボジョレワインの通になったところで晚餐会となり、土地のワインテイスターによる歓迎の儀式に始まるひとときは、学会に参加してよかったと誰もが思った、楽しい思い出である。ホテルに戻ったのは12時を回ったところである。

10日は「リポタンパク質の酸化と細胞活性化」について講演が行なわれたが、筆者はこの朝にリオンをあとにしてストラスブールに移ったので、招待講演のテーマを列挙するにとどめたい。Pagangaは「遊離ラジカルとリポタンパク質酸化」、Esterbauerは「LDLの酸化における抗酸化剤の効果」、Catapanoは「マクロファージによる酸化リポタンパク質の代謝」、Chapmanは「マクロファージの分泌機能に対するリポタンパク質の影響」の講演を行なった。

ポスターセッションは食堂に通じる廊下を利用して行なわれた。

今回の特徴はそれぞれの日の午後1時から3時まで2時間をかけてポスター討論が行なわれたことで、それぞれのポスターの前で説明と質問が司会者の立会のもとに行なわれた。

事前にプログラムのゲラ刷りが送られてきたが、このことはICBLとしては異例のことで、例年だと自分がしゃべる日時以外はわからずに現地に行くことが多いので、リヨンの学会は全体としてはきめ細かく準備された会といえよう。

今回、日本から参加したのは入谷信子（帝塚山短大）、石川浩（持田製薬）、片山眞之（大阪府立大学）、片山洋子（大阪市立大学）、脊山洋右（東京大学）、松永 勇（大阪市立大学）、山本尚三（徳島大学）の各氏である。要旨集がでているので、興味のある方はそれぞれの方に連絡を取っていただきたい。



事務局
Rolander-Chilo

今回の会頭
Lagarde

次回の会頭
Wirtz

第34回国際脂質生化学会議 (ICBL)の御案内

第34回国際脂質生化学会議 (ICBL)はオランダの北海に近い Noordwijkhoutにありますコンgresセンターで開催されます。会頭はK.W.A.Wirtzです。ここはアムステルダムスキポール空港から25 km離れた美しいリゾート地です。

今回は会期が8月25日(水)～28日(土)と、例年よりも早くなっており、夏休み中の会議となります。

取り上げられますテーマは

- 1) Cellular Phospholipases and Phosphoinositide Kinase in Receptor Function and Signal Transduction
- 2) Intracellular Lipid Transport and Metabolism
- 3) Lipids and Recognition

の3項目です。25日夕刻は開会講演 (C.R.H.Raets)、27日は午後にエクスカージョン、28日夕刻は閉会講演 (G.H.de Haas)が予定されています。

詳しい情報は下記に請求してください。演題申込の締切りは例年ですと5月末日です。

Secretariat 34th ICBL
Dept. of Lipid Biochemistry
CBLE/Utrecht
P.O.Box 80.054
3508 TB Utrecht, The Netherlands

Telephone : +30-533425

Fax : +30-522478



34th International Conference on the Biochemistry of Lipids



First Announcement

August 25-28, 1993

Noordwijkerhout, The Netherlands

SCIENTIFIC PROGRAMME

The scientific programme will include invited lectures, selected oral communications and poster presentations.

The topics of the conference are:

- A. Cellular Phospholipases and Phosphoinositide Kinases in Receptor Function and Signal Transduction
Speakers: L.C. Cantley (USA), H.J. Chap (F), C.P. Downes (UK), R.M. Kramer (USA), M. Liscovitch (Israel), S.G. Rhee (USA), H. van den Bosch (NL)
- B. Intracellular Lipid Transport and Metabolism
Speakers: V.G. Bankaitis (USA), G.M. Carman (USA), D. Hoekstra (NL), C.H. Merrill (USA), G.T. Snook (NL), G. Tettamanti (I), F.T. Wieland (FRG)
- C. Lipids and Recognition
Speakers: S.I. Hakomori (USA), K. Inoue (Jpn), A. Janoff (USA), H.-D. Söling (FRG)

Opening- and Closing-Lectures will be presented by, respectively, C.R.H. Raetz (USA) and G.H. de Haas (NL)

第1回 ISSFAL 国際会議の御案内 (1st International Congress of the ISSFAL)

この度、ISSFAL (International Society for the Study of Fatty Acids and Lipids) という国際学会が発足し、その第1回の国際会議がスイスで開催されます。"Fatty acids and lipids from cell biology to human disease" というテーマで平成5年6月30日(水)~7月3日(土)に予定されております。

SCIENTIFIC PROGRAM (Preliminary)

The Scientific Program will include Invited Lectures, Symposia, Oral Communications and Poster Sessions for submitted papers.

Preliminary list of topics:

- POLYUNSATURATED FATTY ACID METABOLISM AND β OXIDATION
- FATTY ACIDS AND CELL SIGNALLING
- FAT SUBSTITUTES
- TRANS FATTY ACIDS
- FATTY ACIDS AND THE CENTRAL NERVOUS SYSTEM
- FATTY ACIDS AND MATERNAL AND INFANT NUTRITION
- FATTY ACIDS AND ANTIOXIDANTS
- PHYSICAL FITNESS
- AGING
- FATTY ACIDS AND THE CARDIOVASCULAR SYSTEM
- METABOLIC DISEASES
- CANCER
- INFLAMMATION AND IMMUNOLGY

SYMPOSIUM will cover a broad range of topics including Antioxidants, Fatty Acid Oxidation, Selected n-6 and n-3 Polyunsaturated Fatty Acids, Saturated and Monounsaturated Fatty Acids, Isomeric Fatty Acids, Fat Substitutes, Essential Fatty Acids and Neurodevelopment, Lipids and Parenteral Nutrition, Lipids and Lipoproteins, Thrombosis, Hypertension, Clinical Trials.

Organizing Secretariat
ISSFAL '93
FONDAZIONE GIOVANNI LORENZINI
Via Appiani, 7
20121 MILAN (Italy)
Phone (02) 29.00.62.67
Fax (02) 29.00.70.18

Scientific Secretariat
Dr. C. Galli and E. Tremoli
Institute of Pharmacological Sciences
University of Milan
Via Balzaretti, 9 - 20123 MILAN (Italy)
Phone (02) 29.40.46.72
Fax (02) 29.40.49.61

日本脂質栄養学会第2回大会(1993)予告(1)

日時：1993年9月3日(金)，4日(土)

場所：名古屋国際会議場 名古屋市熱田区熱田西町1-1

「DHA(ω 3)」シンポジウム

「油とアレルギー，免疫」シンポジウム

パネルディスカッション 「脂質摂取量把握の問題点」

招待講演：Dr. K. S. Bjerve 人における ω 3欠乏症(仮題)

特別講演：アレルギーと油の臨床(仮題)：鳥居新平(名大・医)

特別講演：成人病と油脂栄養(仮題)：浜崎智仁(富山医薬大)

一般講演，ポスター セッション

実行委員長：奥山治美(名古屋市立大学薬学部)

演題締め切り：平成5年5月31日

演題申込・会費振込用紙は会誌「脂質栄養学」2巻1号に綴じ込み。

大会参加費：会員 1,000円，非会員 3,000円

予稿集 1,000円(会員は年会費に含まれる)

懇親会費 5,000円

会員年会費：正会員 3,000円，学生会員 2,000円

問合せ先：〒930-01 富山市願海寺水口444

(入会申込先) 富山女子短期大学内 日本脂質栄養学会事務局

桑守 豊美

電話 0764-36-5146 Fax 0764-36-0133

お知らせ

研究者育成助成金の候補者募集

加藤記念バイオサイエンス研究振興財団より、第五回加藤記念研究者育成助成金の候補者一名を日本脂質生化学研究会から推薦することを依頼されました。つきましては、下記要領で推薦いたしますので、希望される方は事務局までご連絡ください。

1 助成金額 120万円(月額10万円、平成5年9月より一年間)

2 対象者の条件

- a) 平成5年8月31日現在で30才以下の者。
- b) 日本国籍を有し、国内の大学、国公立の研究所等に在籍し職業を持たない(無給である)者。
- c) 企業等からの奨学金、日本学術振興会の研究奨励金、類似の助成金を受給していない者。但し、日本育英会の奨学金は受給してもかまわない。
- d) 日本脂質生化学研究会の会員以外でもよい。

上記助成に応募される方は氏名、所属先名、所属先住所、電話番号、自宅住所を、下記申込先に郵送又はファックスで連絡ください。募集要項と候補者推薦書等を送ります。申込期限は6月末日です。応募者多数の場合の決定については会長にご一任下さい。

申込先

199-01 神奈川県津久井郡相模湖町
帝京大学薬学部 薬品物理化学教室内
日本脂質生化学研究会事務局

Fax 0426-85-2004